



「キリストの誕生、喜びの到来」

竹田 大地(西宮、神戸東、神戸教会牧師)

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカによる福音書 2 章 14 節)

キリストの誕生の場面には恐れと不安が充満していました。ローマ帝国には「ローマの平和」という言葉があったそうですが、これは非常に血なまぐさい平和でした。なぜならば、ローマ帝国は厳しく奴隷、下層民を抑圧することによってその支配を盤石にしていたからです。ローマの繁栄がいかに華々しく、栄華を誇ったところで、それは奴隷や下層民には無縁のものでした。逆に「ローマの平和」は、奴隷や下層民の血と汗で保障されていたようなものだったのです。ローマ帝国のこうしたやり方について「ローマ人は廢墟をつくることを平和とよぶ」(タキトゥス)と非難されたほどでした。また、キリストの誕生の直前にはユダヤ人たちが蜂起し、内乱が各地で起こり、その結果 3 千人の反乱者が一日で惨殺されたという出来事もありました。

いずれにしてもユダヤ人たちは、ローマ帝国と属州イスラエルを治めるように任命されたヘロデ家の人々によって非常に暗く、不安で恐れを抱かざるを得ない状況にあったのです。

そのような中でイエスは、お生まれになりました。その喜びを伝えられたのは、夜通し羊の番をしていた羊飼いたちでした。彼らは、当時の社会において非常に身分の低い者と考えられていました。彼らから物を買うことすらしないとされるほどに人々から嘲笑され、無視されていた存在だったのです。

そのような人たちにクリスマスの訪れが最初に告げられたのはなぜでしょうか。それは、救いとはこの世的な栄華や繁栄をより強固にして、それを確かなものにするのではなく、むしろ弱くされ、小さくされ、無視されている人々のところにもたらされることを示すためなのです。それは、「人間的、社会的な価値の転倒、逆転」を意味します。

ローマにこそ平和があると考えられていました。市井に生きる多くの人々にとっては何の関りもない平和でした。むしろ自分がその平和に預かる喜びなど生涯無いだろうという絶望ばかりです。人間的にも自分は卑しく、つまらない人生を送らねばならない。今の現実にも、将来にも希望を持っていない状況に追い込まれていたのです。

しかし、真の平和は、その絶望のある所、最も低い所に実現するものであり、私と深く関わりのある平和であることをクリスマスの出来事は示しています。

旧約聖書には「主は羊飼いととして群れを養い、御腕をもって集め／小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。」(イザヤ 40 ; 11)とあります。羊飼いは卑しい身分のものでしたが、神が語られたことは、その卑しい者に神御自身がなられて人々を導き、救いへと至らせるという福音です。

この預言の実現がキリストのご降誕を通して示され、神の栄光が天にあり、地に平和がもたらされ、神の御心(救い)が成るのです。「み心が天で行なわれるように、地上でも行われますように」この主の祈りの一節がキリストの誕生を通して啓示されています。

「ローマの平和」という何のかかわりもない平和、「廢墟をつくる平和」という虚構ではなく、共に生きてくださり、命を神の栄光で照らし出し、私と深く関わる真の平和を与えたもう方の到来がクリスマスです。だからこそ「民全体に与えられる大きな喜び」に他ならず、人々の恐れは取り払われるのです。

いま、新型コロナウイルスによって大きな不安、恐れが人々の心を侵食しています。そのような中で私たちはこのクリスマスに与えられている神からの福音に力づけられ、希望をもって、真の平和と喜びが到来し、

今救い主であるキリストが共に私と深く関わって生き、支えてくださっていることを覚え歩んでまいりましょう。



「るうてるホーム、新ホームページ発進！」

わたしたちRO委員会（るうてるホームを面白くする委員会）の念願であったホームページのリニューアルが実現しました。これは、委員会のメンバーのみならず、大柴理事長をはじめとする全職員、ご利用者様、ご家族様の協力があったはじめて作り上げる事ができたものです。あらためて、皆様に感謝いたします。

新しいホームページのテーマは「老舗の冒険」です。これは、55年の歴史がある“るうてるホーム”が、既存の枠に囚われず、新しい事に挑戦をするという決意の現れであり、また自らのホームの「良いところ探し」の旅でもありました。

“るうてるケア”という言葉があります。私はこれを「聖書の教えに従ってお客様を敬い、お仕えする」という法人の理念を、職員のプライド（プロ意識）で表現したものであると考えます。具体的には、デイサービスでは利用希望のお客様に対して、心身の状態を理由に決してお断りしない。特

RO委員会 穎娃和典
養では、ベッドで寝たきりになられたお客様に対して、必要に応じてこまめな体位交換を行い絶対に褥瘡をつくらない。ショートステイでは、ご利用者様のご家族の要望に応じて、夕食後の送迎にも対応するなど、他法人では困難な課題に関しても、職員自らが積極的に取り組んでいます。

また、コロナ禍ではじめて実施したオンライン実習、介護ロボットやタブレット機器の導入。広報の重要性を認識したSNSの積極的な活用など、新しい取り組みも徐々に増えてきています。

リニューアルはあくまでもスタートライン。新ホームページではこれらの“良き伝統と新しい価値の創造のミックス”をホーム内外の方々に知って頂くため、継続的に様々な形で発信していきたいと考えています。るうてるホームの魅力を効果的に伝え、新しく利用される方々やホームで働きたい方が増えることを期待しています。

「感染症対策の取り組みについて」

新型コロナウイルスの世界的流行という情勢の中、るうてるホームでは様々な感染症対策を講じながら事業をすすめています。大阪府は全国2位の流行地域であり、関係者の感染や近隣市の社会福祉施設、医療機

地域支援事業部長 高田真希
関等での感染拡大を聞くことも少なくありません。明日は我が身と思いつつ、細心の注意を払いながら職務にあたっています。

未曾有の事態の中、苦勞するのは様々な判断の局面です。情報はあっても捉え方や

意識は職員によって異なり、何をどこまですればいいのか、ないはずの正解を求めて迷うこともしばしばです。また、様々な対策を講じる中でご入居者に外出や外食、面会などを控えていただくこともあります。当事者不在のまま対策を決めている場面もあり、葛藤を感じることも少なくありません。先行きの見えない状況の中、職員自身も生活者および支援者としてストレスに晒されています。

けれども、決してネガティブなことだけではありません。新たな発想で新しいことにも前向きに取り組んでいます。法人建物の空室を活用して分離ワークを行ったり、地域の方々や関係団体と課題検討をしたり、新たなプログラムを創出したりなどです。



スピリチュアル研修「ディアコニアってなんだろう」

特養事業部 布川のぞみ

2020年11月7日にるうてるホームで行われた研修に出席させていただきました。

コロナ禍の中での研修の為、森本典子先生（るうてるホーム理事・関西学院大学講師）には講義の録画をしていただき、職員も5グループに分かれてそれぞれの場所で、画面を見ながらの研修になりました。

ディアコニアについては、学生時代に勉強をしたことと、仕事については、時々言葉を聞く程度でした、今回の研修を受けてディアコニアを通して改めて考えることが出来ました。

ディアコニアの意味は新約聖書での「奴隷のように仕える。僕となる」からイエス様の「ディアコニアをするために来た」というお言葉により「助けが必要な、声をあげられない人を支援する」そして「他者を大切にす働き」に変わっていきました。

るうてるホームにおいては、マルムグレンゴ夫妻がディアコーン、ディアコニッセの看護師としてデンマークよりるうてるホームへ来てくださり介護の現場で実践を通して教えてくださいました。（1976年から1981年）その中でも「お年寄りの要求はどんなに小さな事であっても個別にいつでも対応する」ことを大切にしておられたことを伺い、その精神が受け継がれていること

例年実習受入れを行っている養成校からはオンライン実習の講義依頼があり、WEBカメラを駆使して初のリモート講義を実施しました。最近では実習中にオンライン面談を取り入れています。

新しいことに取り組む中で発見や楽しみもあり、この状況下だからこそ得られる経験なのだと感じています。また、各種取り組みの中で、情報の捉え方や意識に相違があることを前提として対話を重ねていますが、こうした経験は今後の私たちにとって必ず成長の糧になると確信しています。まだまだ通過点にすぎませんが、「禍」に翻弄されるのではなく、意味を持たせてこの困難な状況を乗り越えていきたいと思えます。

を感じました。

講義後グループワークがあり「相手の言葉に耳を傾ける時に自分が心掛けていること」を各自、話をしたのですが、「聞きながら、表情やしぐさを見る。せかさない。ながらにしない。否定しない。話を遮らない。心の動きを想像する。触ってみる。今はマスクをしているので表情が読み取りにくい為目元をみる。」などの意見が出ました。

仕事の中でもナースコールを何度も鳴らされる方があり、用事をした後すぐにまた鳴らされたり、伺っても鳴らしたことも忘れられていることがあります。何かを満たされるまで鳴らされることもあります。それでも伺うことで安心されたり、声を掛けることで何かを満たされたりする時があります。声を出されなくても動きや、表情や、食事の召し上がり方で語って下さる方がいらっしゃいます。

そのことを見逃さず、歩いていても立ち止まってその方に向き合うことで、受け止める心が向けられて、その方の思いを感じることができると思います。

「その方の思いを大切に思うこと」を忘れずにいる大切さを改めて考えることができました。

